

隈川雑詠その(一) (広瀬淡窓)

龜山は 宛として 水の 中央に 在り

伝う 是れ 毛侯の 古戦場

画戟 彩旌 空しく 一夢

芦花 乱れ 発いて 月 蒼々

龜山宛在水中央 傳是毛侯古戰場  
畫戟彩旌空一夢 蘆花亂發月蒼蒼

解説 淡窓が住んだ日田市の南部を流れる川のほとりの景物を詠じた詩。

語釈 ※隈川||淡窓が住んだ日田市の南部を流れる川。 ※龜山||龜山ともいう。 ※宛||昔のままにの意。 ※毛侯||毛利侯。 毛利高政をさす ※古戰場||島津義弘と合戦があつたらしい。 ※画戟||美しい裝飾を施したホコ。 ※彩旌||色鮮やかな軍旗。 ※芦花||あしの花。 ※発||花の咲くこと。 ※蒼々||青白いことをいう。

通釈 龜山は往時に変わらず、昔のままに隈川の流れの中央に立っている。この龜山の地はその昔、毛利侯と島津氏が相争つた古戰場であると伝えられているが、今日、こうして水辺にたずめば、美しいホコや鮮やかな旗を立て並べて戦つたことなど、一場の夢にすぎぬように思われる。ふと見れば、青白い月の光の下、あしの花が乱れ咲いている。